

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E112H016	生物学実験(コンピュータ活用を含む。)(Experiments of Biology)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	1	3	教育学部			氏名 泉 好弘、永野 昌博 E-mail yizumi@oita-u.ac.jp / masanagano@oita-u.ac.jp 内線 7577 / 7576											
授業の概要	様々な実験や観察を行うとともに、実験や観察の準備方法やデータ解析法について解説する。授業終了後、自分自身で実験や観察を実施するためのマニュアルとなるレポートを作成する。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	植物学、動物学、生態学における代表的な実験や観察の方法を説明できる。																
目標2	植物学、動物学、生態学における代表的な実験や観察を独力で実施できる。																
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	顕微鏡の使用法																
2	植物の構造 I - 花の構造 -																
3	植物の構造 II - 茎の構造 -																
4	植物の構造 III - 種子の構造 -																
5	植物の構造 IV - 果実の構造 -																
6	細胞の観察 I - 動物細胞 -																
7	細胞の観察 II - 植物細胞 -																
8	細胞の観察 III - 体細胞分裂 -																
9	動物の発生 I - 魚類の発生 -																
10	動物の発生 II - 両生類の発生 -																
11	土壌生態学実験 I - 土壌動物の採集 -																
12	土壌生態学実験 II - 土壌環境の測定 -																
13	コンピュータを活用した土壌動物と土壌環境の関係の解析法																
14	野外での生物観察 - 生物の探し方と採り方 -																
15	生物標本作成 - 生物標本の作り方、生物の種名の調べ方 -																
ラーニング	A:知識の定着・確認	実験・実習、指名発問					工夫	その他									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	事前に配布する資料を読んで、実験内容を把握する(15h)															
	事後	実験ノートを整理し、レポートを作成する(30h)。															
教科書	教科書は指定しない。 事前に配布するプリントを使用する。																
参考書	参考書は指定しない。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート	80%															
	授業(実験)中の態度	20%															
注意事項	遅刻厳禁																
備考																	
リンク																	
	URL																